

進路ジャーナル



青森県立森田養護学校
進路指導部 No.9
発行日 R4. 12. 23

今年も残すところわずかとなりました。1月に「今年の目標」や「今年やりたいこと」を考えていますが、この時期になると、「どれくらいできたかな?」と振り返りをし、来年へ向けて新たな目標を考え始めます。

仕事でも、プライベートでも、何かに挑戦し、達成することの面白さを知ってから、その傾向は強くなったように思います。

みなさんの今年の目標は何だったでしょうか?新たな年へ向けて、1年後の姿をイメージしながら、チャレンジすることを考えてみてはいかがでしょうか?

今回の進路ジャーナルでは、高等部の進路講話についてご紹介します。新年の目標のヒントになるかもしれません!

11月29日(火)、高等部の参観日において、「ジョブカフェあおもり」よりキャリアカウンセラーの蛸名由子氏を講師にお迎えして、進路講話が開催されました。

今回は、「進路選択へ向けての関わり方」と題し、高等部の生徒たちが、進路を考えたり、実習へ行ったりする前に学んでいることを、保護者のみなさまにもお伝えし、ともに生徒たちの進路を考えていこうという目的で行われ、働く意義や、ビジネスマナーなどについて具体的な例を挙げながらの講話となりました。

今月号では、講話の中から、ぜひ本校の保護者のみなさまにも考えていただきたいことをいくつかご紹介します。

① 人はなぜ「はたらく」の?

この質問には、100人いれば、100通りの答えが出てくると思います。実際、先生方に「あなたにとって働くとはどういうことですか?」と質問したところ、一人として同じ答えは返ってきませんでした。

生徒たちに質問すると、真っ先に「お金をもらうため」という答えが返ってきます。そして、次に「生活を sürdürるため」と答えが続いていきます。

生活の(生きる)ため 	お金持ちになるため 	有名になるため
働く楽しいから 	様々な人に会えるから 	人に認められるため
社会や人の役に立ちたいから 	自分自身の成長のため 	世の中に何か残したいから

上に示したのは、「なぜ働くのか」の答えの一例です。同じ人でも、その仕事の環境や年齢、家庭の状況などで答えも変わってくると思います。ぜひ、ご家庭でも「なぜ働くのか」について話題にしてみてください。

② 挨拶・返事について

挨拶は、ハキハキと元気にできているでしょうか？挨拶がしっかりとできていると、職場へ行っても（実習の時に）、従業員のみなさんから受け入れられやすい傾向にあるようです。

「自分から（先に）・相手を見て・ハキハキと・大きい声で（相手に聞こえるように）元気に」することが挨拶のポイントです。今年度、小学部では挨拶がしっかりとできると「げん木」にシールの花を咲かせるという活動を行っています。始めはもじもじ挨拶をしている子が多かったのですが、最近は廊下ですれ違うと、自分から元気に挨拶をしてくれる子が増えてきました。

できるようで、なかなか難しい挨拶です。日ごろから、家庭でも取り組んでみてはいかがでしょうか？

③ 家の手伝いと働くことの違い

家の手伝いをしています、という子どもたちも多いようです。休み時間に聞いていると、「家庭でも役割をもって頑張っている」ことを嬉しそうに話してくれます。それぞれに役割があって、「誰かの役に立っている」活動に取り組めるというのは、とてもいいですね。

一方、社会に出て働き始めると給料をもらうことになります。給料は働いたことに対する対価です。そして、そこには責任が伴ってきます。責任を伴うということは、分からないことがあったらすぐに質問し、確認することができる、報告することができる（特に、悪いことほど早く報告をする）ことをはじめ、職場のルールに従うことが大切です。卒業後、お家の仕事（農作業など）を手伝う場合にも、「お手伝い」ではなく「仕事」として取り組むのであれば、危険を伴う活動や、働く上でのルールを守ることを、今のうちから身につけておく必要があります。

④ 卒業までにやってほしいこと

人は誰でも苦手なことがあります。できれば苦手なことは避けて通りたいものですが、諦めずにできるところまで挑戦してみることが大切です。

人は成長する生き物です。今はちょっと難しいことでも、毎日少しずつ続けていくことで、できるようになっていきます。できることを少しずつ増やしていくことが大切です。「そんなことは無理」と言って諦めてしまっては、決してできるようにはなりません。諦めずに何度も挑戦しましょう。

特に、ビジネスマナー（挨拶・返事・ハウ・レン・ソウ、時間や締切を守る、身だしなみ等）は、身につけるのに時間がかかるものです。中でも、「言葉遣い（敬語）」は、大人の私たちでも難しいと感じるものです。

敬語の全てを身につけるのは難しいですが、語尾に「～です」「～ます」をつけて話す、職場や大人の中で話しをするときの敬語をいくつか身につけておくだけでも、相手が受け取る印象は大きく違ってきます。ちょっとしたことですが、日々の積み重ねが必ず力になります。

高等部卒業後を見つめながら、毎日取り組むというのは、なかなか気の遠くなるような話かもしれませんが、できることが増えることで、人生の選択肢が増えることを信じて取り組んでいただきたいと思います。



覚えておくと便利な「進路に関することば」④



高等部卒業後に、福祉サービスを利用するには、様々な手続きが必要になります。今月は、福祉サービス利用に伴う手続きの際に出てくることばについて説明します。似たようなことばが出てきますので、「進路に関することば」①～③も参考にしながら読んでください。

就労アセスメント

特別支援学校を卒業後、すぐに就労継続支援 B 型の利用を検討している方や、就労継続支援 B 型事業所を利用して、就労継続支援 A 型や一般就労への移行を検討している方を対象として行われます。アセスメントの内容としては、健康管理や対人技能、職業適性などがあり、何が得意で、何が不得意なのか、どのような指示をすれば、どれくらいの時間仕事に取り組めるのかなど、実態把握を行います。就労アセスメントは、就労移行支援事業所が5日～10日程度の日程で実施します。就労アセスメントを行うメリットは以下の通りです。

- ・自分の障害に対する理解を深められる。
- ・就労継続支援 B 型の支援内容を知ることができる。
- ・就労継続支援 B 型を利用する理由が明確になる。



障害福祉サービス受給証

障害者福祉サービス受給証とは、障害者総合支援法や児童福祉法に基づいて運営している事業所の福祉サービスを受けるために必要となります。受給証を取得すると、行政からの給付金を受けながら福祉サービスを利用することができるようになります。

障害者手帳と受給証は全く別物であるため、障害者手帳をお持ちの方でも福祉サービスを利用する場合は、受給証の取得が必要となります。「受給証」の取得については、居住地の市町村役場の福祉窓口にお問い合わせください。

障害支援区分

「障害支援区分」は、その必要とされる支援の度合いに応じて、1～6の区分に分類されます。区分1が最も軽く、区分6が最も重い障害の程度ということになります。6つの区分の他にも、「非該当」という区分もあり、非該当と判断された場合、支援の必要性が低いと判断されることになるので、受けられる障害福祉サービスが制限されます。

行政が行う審査会により、障害支援区分の認定を行います。また、障害支援区分には有効期間があります。有効期間の終了後は更新のための再判定が必要となります。



シリーズ 「今から取り組もう⑦」

いよいよこのシリーズとしては、最後の投稿となりました・・・今回は、今まで投稿してきた「今から取り組もう①～⑥」までをおさらいしてみたいと思います。



シリーズ①では、進路希望先でよく聞く就労の分類について話しました。保護者に行ったアンケート調査の結果、「**一般就労、就労支援継続A型、就労支援継続B型、生活介護**」の主な分類名を聞いた事があるがほとんどでしたね。NO.3（6月に発行）で提示した分類の内容は、ごく一般的なものであって、事業所によっては、作業内容も違い、それぞれの事業所の特色がありますので、今一度確認をしてみて、知識を深めましょう。分からないことや、知りたいことがある時は遠慮なく、学校までお問い合わせください！！

シリーズ②では、相談支援事業所の事を話題にしました。福祉サービスを利用するにあたって、本人の立場に立って、願いや相談を受け止め、関係機関とのネットワークを構築して、一緒に考えてくれる事業所のことですね。在学中だけでなく、卒業後もずっとそばに居てくれますよ。NO.4（7月に発行）に近隣の相談支援事業所も掲載しましたので、不安な事を相談してみてもいいかもしれません！



シリーズ③以降では、保護者へのアンケート調査と県内特別支援学校が事業所へアンケート調査をした結果を照らし合わせた内容を掲載しました。シリーズ③は、「**日常生活で気をつけていること**」についてでした。小中学部では日常生活面（身辺処理等）の回答が多く、高等部では現場実習での課題に触れた回答が多かったですね。事業所のアンケートでは、「**生活リズム**」「**規則・ルール**」の部分が高いパーセンテージでした！

シリーズ④では、「作業態度で日頃から取り組んでいること」についてでした。小中学部では「特になし」の回答が多かったのに比べて、高等部では直接的・実践的な回答が多かったですね。事業所のアンケートでは、「安全に行動」という項目が高いパーセンテージを示していました。安全を意識することに加えて、やり方やルールを守って取り組むことも日頃から気を付けていくことが必要です。



シリーズ⑤では、「コミュニケーション面で日頃から取り組んでいること」についてでした。全学部で同じような回答となり、挨拶や言葉遣い等でしたね。我々大人達がしっかりと手本となるようにしていきましょうと話しました。事業所アンケートの結果でも同じような結果となっていました。どこでも必要とされるスキルのため、在学中にきちんとできるようにする必要があります。

シリーズ⑥では、「子どもが仕事（作業）に意欲的に取り組めるように日頃から気を付けていること」についてでした。全学部で「褒める」「ご褒美をあげる」の回答がたくさんでしたね。この二つは意欲をかき立てる二大要素・・・事業所アンケートでは、「素直に聞き入れる」の項目が全体的に高く示していましたが、指示理解や素直さが周りの人との友好的な関係を築けて、「やりがい」を感じて仕事ができるのかなぁと思います。自分から「やりがい」を見つける能力も必要だと思いますね。



- ★まずは、子どものために★
- ①働くために必要なスキルを早めに身に付けさせよう
 - ②事業所の情報を知ろう
 - ③悩まずに何でも相談しよう
- ★子どものために頑張ろう★

結びに、お忙しい中、アンケートへの回答にご協力いただき、ありがとうございました